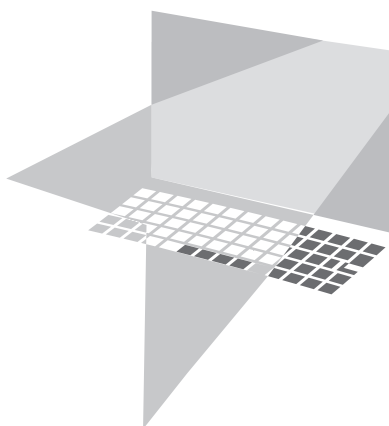


# 第1章

## 携帯電話の利用

野村 徳之 (1・2・4節)

佐藤 暢子 (3節)



## 携帯電話の利用の実態

### 1 携帯電話の所有率

携帯電話の所有率は、小学生が3割、中学生が5割、高校生が9割。男女ともに中3生から高1生の間でもっとも所有率が高まる。小学生から中学生にかけて、男女差が大きい。高校生になると、男女や地域による携帯電話の所有率差がほとんどなくなる。成績別では、中学生の成績上位層の所有率が他よりも低い。

その契約台数から「ひとり1台は携帯電話を所有する時代」などといわれるこの国において、はたしてどれくらいの子どもたちが携帯電話を持ち、使っているのか。その利用の実態を明らかにすべく、「所有」「利用頻度」「利用機能」「料金の支払い者」「連絡先の登録件数」「使用のきっかけ」に関してたずねた。

#### ◆ 高校生は男女とも約9割が携帯電話を所有

「あなたは、携帯電話を持っていますか」の設問に対し、「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」「携帯電話は持っていない」のいずれかを回答してもらった。表1-1-1は、所有の内訳を示したものである。学年別にみると「自分専用の携帯電話を持っている」小4生は22.0%であるが、中3生では46.7%と倍増し、高2生では93.5%とさらに増える。「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」は、学年によって多少ばらつくが、小・中学生は5.4%から8.5%とほぼ一定の割合である。しかし高校生になると、高1生が0.3%、高2生が0.2%と、ほとんどいなくなるのがわかる。以下、調査の結果から「自分専用の携帯電話を持っている」と「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」との回答を足して「携帯電話を持っている」層とし、その割合を

「所有率」とした。

学校段階別の携帯電話の所有率は、小学生で30.6%、中学生で47.8%、高校生で92.3%となっている（図1-1-1）。学年別では、小4生の29.0%から高2生の93.7%まで、学年があがるにつれて増加していくが、とくに中学生の間で増加し、中3生と高1生の間でもっとも大きく跳ね上がっている。

性別にみると、女子のほうが男子よりも所有率が高まる時期が早く、中学生では約15～20ポイント程度も女子の所有率が高い。ただ、高1生になるとその差が一気に縮まり、高2生になると男女差はほとんどなくなる。高校生の男女とも約9割という所有率からは、携帯電話が日常生活を営む上での必須のアイテムとなり、生徒のほぼ全員が所有するクラス の存在も珍しくなくなったということがいえるだろう。

#### ◆ 高校生では地域による所有率の差もみられなくなる

次に、地域別に携帯電話の所有率の差をみてみよう（図1-1-2）。

小学生は大都市での所有率は54.5%、中都市では21.3%、郡部では18.8%。中学生は大都市での所有率は71.3%、中都市では42.7%、郡部では33.4%となっている。小・中学生とも、大都市と郡部の所有率には2倍以上の開

きがある。また中都市との間にも約30ポイントの開きがある。これが高校生になると、大都市91.3%、中都市93.0%、郡部92.9%となり、地域による差はほとんどみられなくなる。

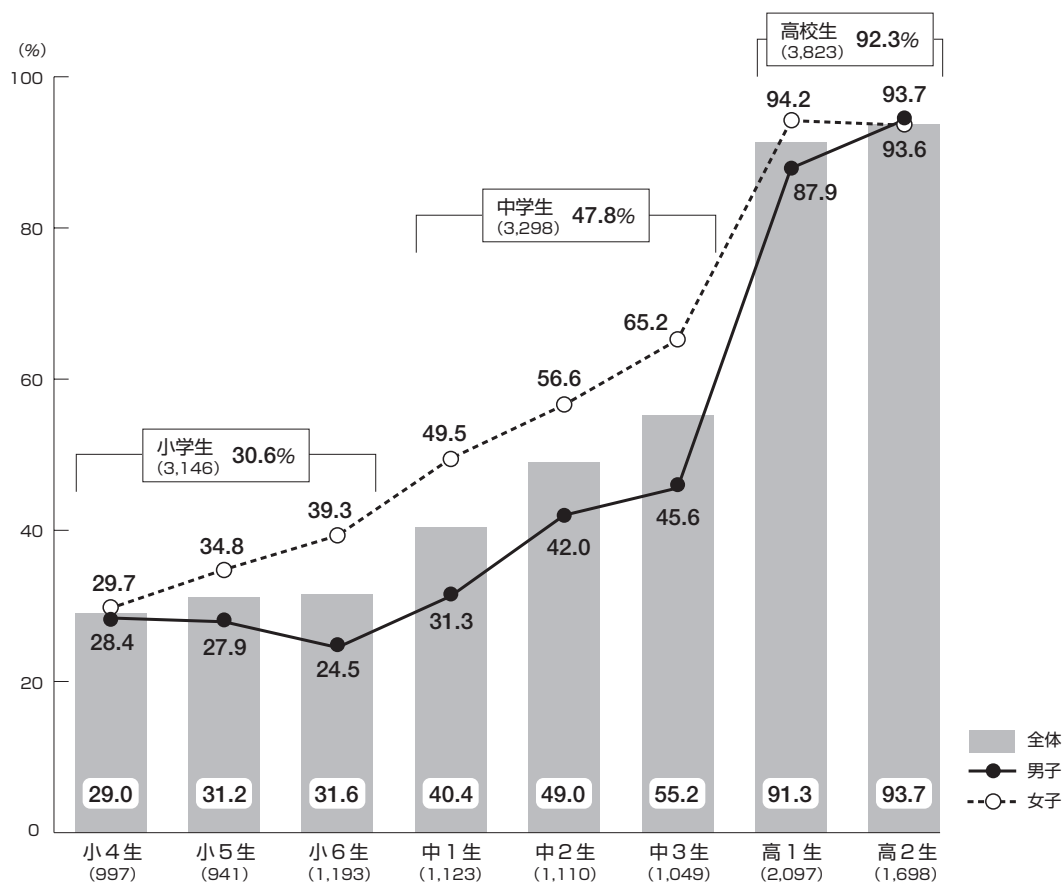
こうしてみると、図1-1-1でみられた中3生から高1生の間の所有率の急激な高まりは、とくに中都市と郡部の影響が強いことがわかる。

表1-1-1 携帯電話の所有率（自分専用と家族と共用の内訳）（学年別）

	小4生 (997)	小5生 (941)	小6生 (1,193)	中1生 (1,123)	中2生 (1,110)	中3生 (1,049)	高1生 (2,097)	高2生 (1,698)
自分専用の携帯電話を持っている	22.0	25.4	26.2	33.5	42.4	46.7	91.0	93.5
家族と一緒に使う携帯電話を持っている	7.0	5.8	5.4	6.9	6.6	8.5	0.3	0.2

注) ( ) 内はサンプル数。

図1-1-1 携帯電話の所有率（学校段階別、学年別、学年別/性別）



注1) 「自分専用の携帯電話を持っている」+「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」の%。

注2) ( ) 内はサンプル数。なお、学年別の性別でのサンプル数については、以下のとおり。男子 (小4生486人、小5生474人、小6生616人、中1生571人、中2生574人、中3生533人、高1生957人、高2生761人)、女子 (小4生510人、小5生466人、小6生575人、中1生550人、中2生532人、中3生515人、高1生1,137人、高2生933人)。

## ◆中学生の成績上位層は 携帯電話の所有率が低い

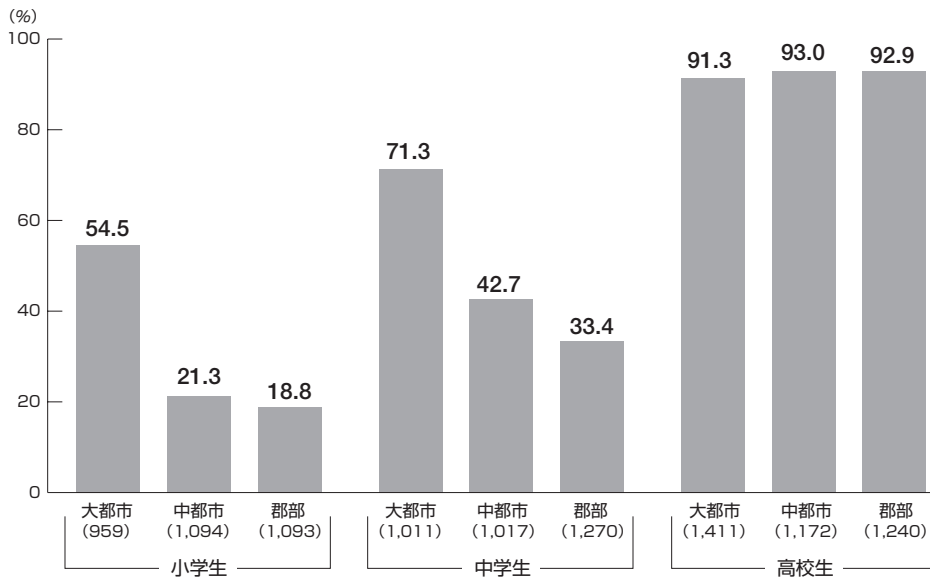
次に、成績・高校偏差値層別に携帯電話の所有率の差をみてみよう（表1-1-2）。

小学生の成績別の所有率は、上位層33.3%、中位層28.2%、下位層30.0%。中学生は、上位層41.4%、中位層51.0%、下位層51.4%。高校生の所有率は、進学校92.0%、中堅校92.8%、進路多様校91.9%となっている。小

学生では成績上位層の所有率がやや高く、中学生では成績上位層は他よりも10ポイントほど低い。高校生では大きな違いはみられなかった。

中学生の成績上位層の何割かは、保護者に携帯電話の所有を認めてもらえず、高校入学時まで購入を待たされる、という保護者と中学生とのかかわりがあるのかもしれない。

図1-1-2 携帯電話の所有率（学校段階別／地域別）



注1) 「自分専用の携帯電話を持っている」+「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」の%。  
注2) ( ) 内はサンプル数。

表1-1-2 携帯電話の所有率（学校段階別／成績・高校偏差値層別）

	小学生			中学生			高校生		
	上位 (862)	中位 (1,233)	下位 (927)	上位 (1,127)	中位 (889)	下位 (1,203)	進学校 (928)	中堅校 (1,802)	進路多様校 (1,093)
自分専用の携帯電話を持っている	28.2	21.7	24.1	34.3	43.6	44.4	91.6	92.6	91.5
家族と一緒に使う携帯電話を持っている	5.1	6.5	5.9	7.1	7.4	7.0	0.4	0.2	0.4
所有率(計)	33.3	28.2	30.0	41.4	51.0	51.4	92.0	92.8	91.9

注) ( ) 内はサンプル数。

## 2 携帯電話の利用頻度

小学生は「家族への電話」が多いのに対し、中・高校生は「友だちへのメール」が多い。全般に女子の利用が活発である。

### ◆ 携帯電話を持つ小学生の6割は、 友だちへのメールをほとんどしない

携帯電話の所有者にのみ「あなたは、1日のうちで携帯電話をどれくらい使いますか」と、携帯電話の利用頻度をたずねた(図1-1-3)。結果は、小学生では「家族に電話をかけること」は、「ほとんど使わない」が28.7%、「1～2回」が37.8%、「友だちに電話をかけること」は、「ほとんど使わない」が63.5%、「1～2回」が20.2%となった。「家族にメールを送ること」は「ほとんど使わない」が40.0%、「1～2回」が28.6%、「3～5回」が17.7%、「友だちにメールを送ること」については「ほとんど使わない」が58.8%、「1～2回」が11.4%、「3～5回」が10.0%となっている。電話もメールも家族に対する使用が多いことがうかがえる。帰宅や到着時の安全確認など、家族と携帯電話使用の決まりごとを定め、その約束どおりに使っている層が一定以上いる可能性がある。

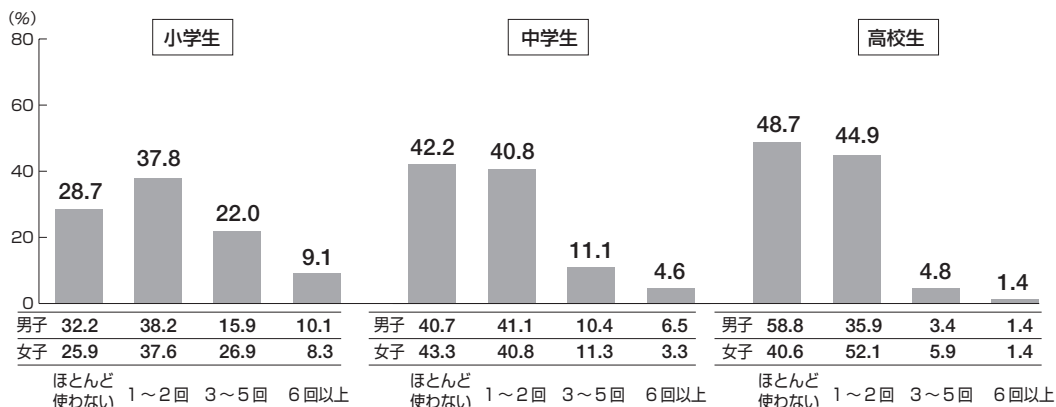
中学生では「家族に電話をかけること」は、「ほとんど使わない」42.2%、「1～2回」40.8%、高校生では「ほとんど使わない」48.7%、「1～2回」44.9%であった。小学生と比べて

「1～2回」の層は多いが、「3～5回」以上が少なく、「ほとんど使わない」が多い。また、「友だちに電話をかけること」は、中・高校生とも小学生と似た回答結果となったが、「友だちにメールを送ること」については、「ほとんど使わない」が中学生で12.3%、高校生では8.1%となっている。友人とのつきあい方が小学校時代よりも密になり、放課後以降、夕刻よりも遅い時間にコミュニケーションを図ろうとすると、親の目や耳の及ばない、メール機能が重宝される部分が出てくるのかもしれない。また、「友だちにメールを送ること」を「31回以上」(「31～50回」+「51～100回」+「101回以上」の合計)という高い頻度で行っている中学生は21.1%、高校生は16.8%となっている。

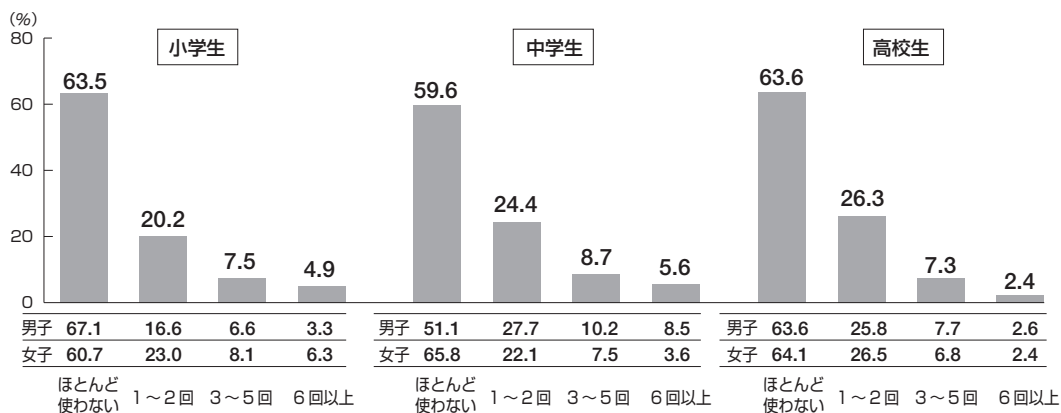
性別で見ると、女子のほうが活発に利用しているようである。とくに高校生の女子は、「家族に電話をかけること」について「ほとんど使わない」が40.6%だが、男子は58.8%と高い。また女子は、「家族にメールを送ること」について「ほとんど使わない」が28.7%だが、男子は49.0%と高いことがわかる。

図 1-1-3 携帯電話の利用頻度（学校段階別、学校段階別／性別）

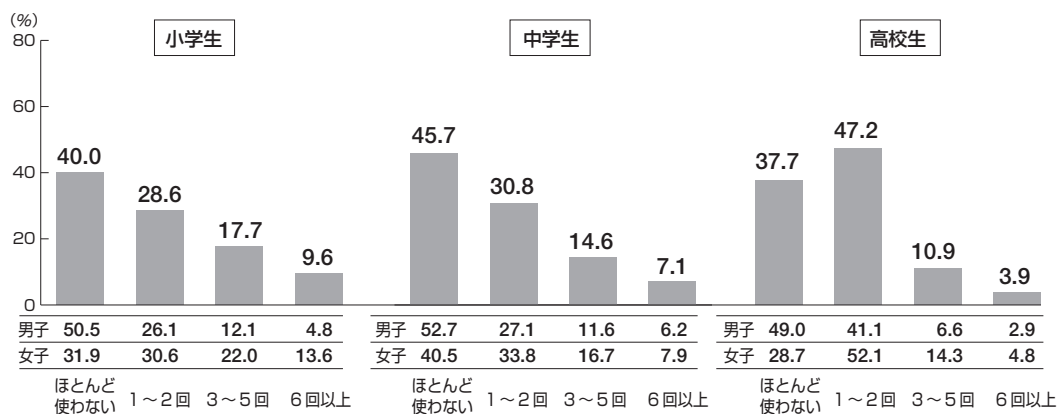
●家族に電話をかけること



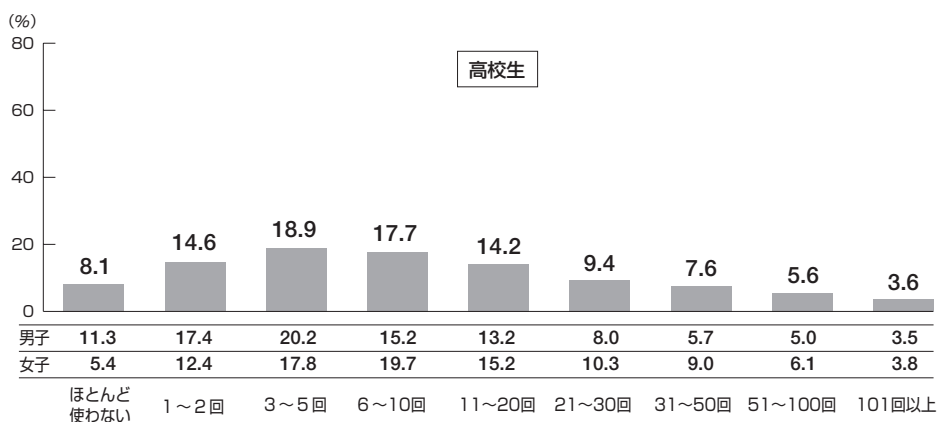
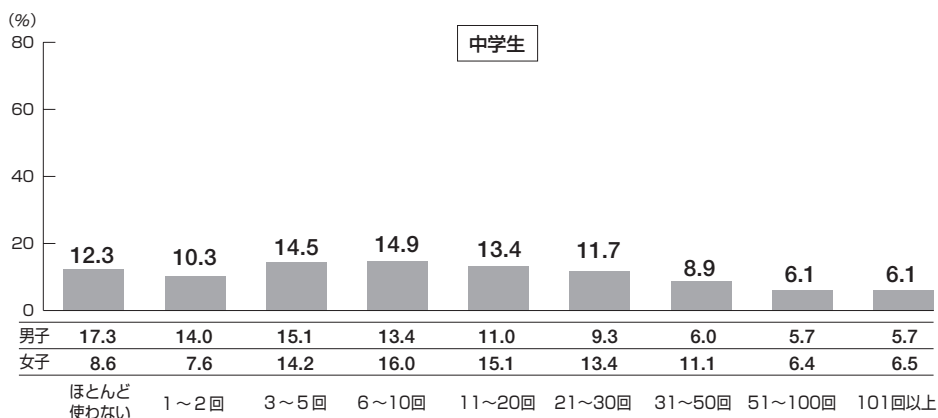
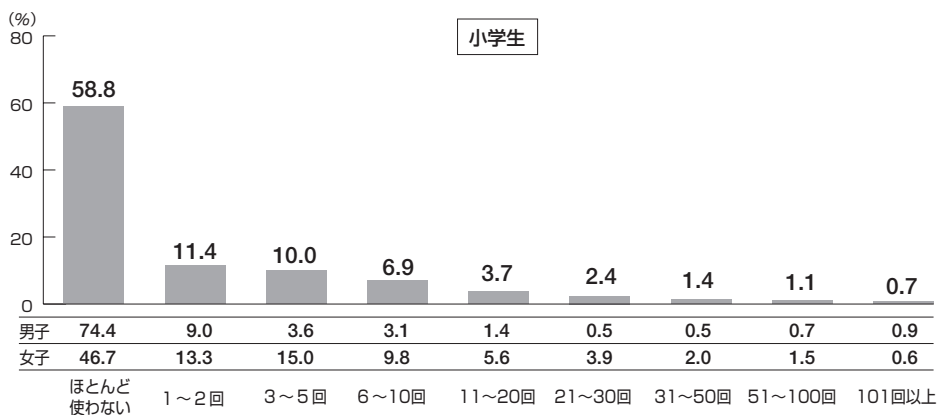
●友だちに電話をかけること



●家族にメールを送ること



●友だちにメールを送ること



注1) 「あなたは携帯電話を持っていますか」の設問に「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。

注2) 「6回以上」=「6～10回」+「11～20回」+「21～30回」+「31～50回」+「51～100回」+「101回以上」。

注3) 「無回答・不明」は省略した。

注4) サンプル数は、小学生962人、中学生1,579人、高校生3,529人。小学生男子422人、小学生女子540人、中学生男子664人、中学生女子909人、高校生男子1,556人、高校生女子1,946人。

### 3 携帯電話の利用機能

いずれの学校段階でも「カメラで写真をとる」がもっとも多い。また、利用機能には男女差がみられ、写真・動画（ムービー）・音楽ダウンロードは女子、ゲームは男子のほうが使っている割合が高い。

#### ◆ 高校生の女子の94.2%が

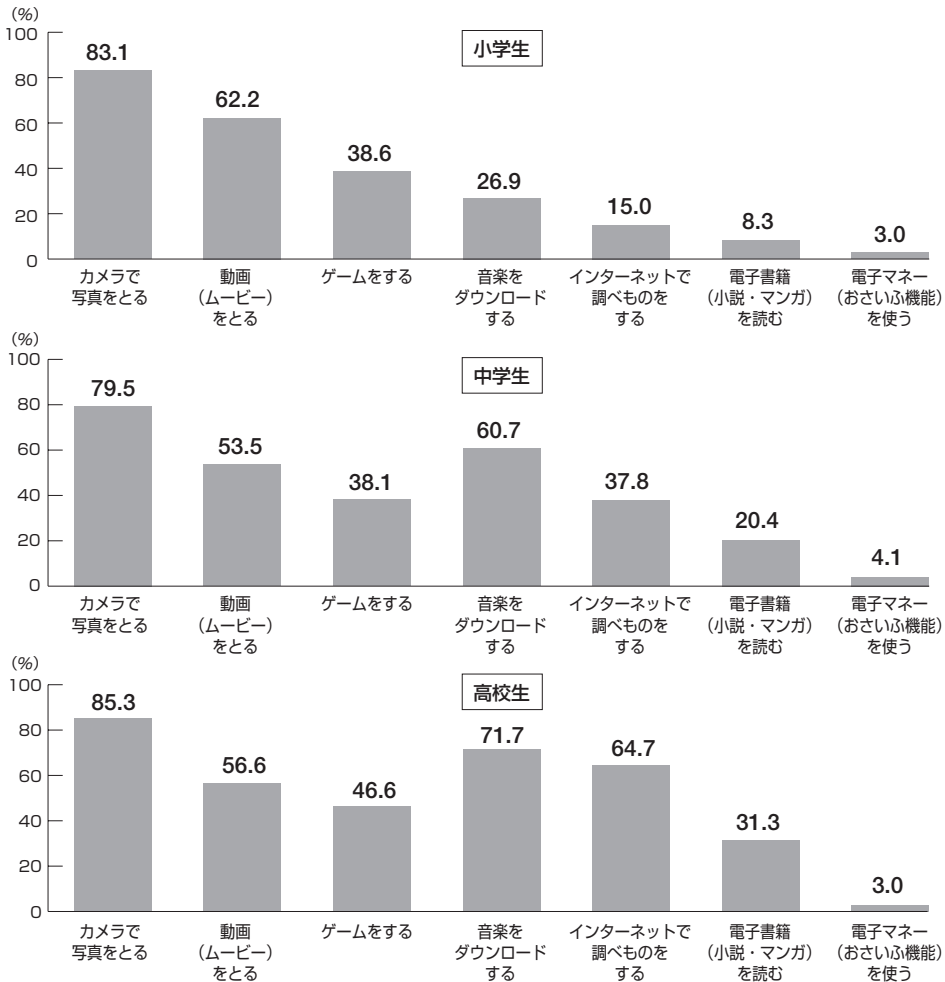
##### 「カメラで写真をとる」

携帯電話には、通話やメール以外にも、その端末ごとに特徴があり、多くの機能を搭載

している。

携帯電話の利用機能をたずねたところ（図1-1-4）、学校段階を問わず「カメラで写真をとる」が多く、所有者の8割前後であっ

図1-1-4 携帯電話の利用機能（学校段階別）



注1 「あなたは携帯電話を持っていますか」の設問に「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。

注2 「する」の%。

注3 サンプル数は、小学生962人、中学生1,579人、高校生3,529人。



た。「動画（ムービー）をとる」も一貫して5～6割である。これに対して、「音楽をダウンロードする」や「インターネットで調べものをする」は、学校段階があがるにつれて「する」という回答が顕著に増加する。

また、性別でみると（表1-1-3）、写真や動画、音楽ダウンロード、さらに中・高校生では電子書籍は女子のほうが「する」割合が高い。これに対して、ゲームは男子のほうがよく使っているようだ。もっとも利用する割合が高いのは、高校生女子の「カメラで写

真をとる」の94.2%で、高校生男子よりも約20ポイントも利用率が高い。

フィルムを用いるカメラが売れなくなっている。CDが売れなくなっている。ゲームセンターのプリントシールが写真の補正やデコレーション化の機能を標準装備するようになっている。さらにはその画像の情報を、携帯電話と連動させることができる機種もある。このように世の中の消費や風俗が変化する原因には、携帯電話の多機能化の影響もありそうである。

表1-1-3 携帯電話の利用機能（学校段階別／性別）

	小学生		中学生		高校生	
	男子 (422)	女子 (540)	男子 (664)	女子 (909)	男子 (1,556)	女子 (1,946)
カメラで写真をとる	77.3	87.6	71.1	85.6	74.3	94.2
動画（ムービー）をとる	55.2	67.6	49.4	56.4	51.4	61.1
ゲームをする	39.6	37.8	45.9	32.2	58.2	37.4
音楽をダウンロードする	22.0	30.7	57.1	63.3	67.0	75.4
インターネットで調べものをする	16.1	14.1	36.1	38.9	63.0	65.9
電子書籍（小説・マンガ）を読む	8.8	8.0	13.6	25.4	21.2	39.2
電子マネー（おさいふ機能）を使う	3.8	2.4	5.9	2.9	4.2	2.0

注1) 「あなたは携帯電話を持っていますか」の設問に「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。

注2) 「する」の%。

注3) ( ) 内はサンプル数。

## 4 携帯電話料金の支払者

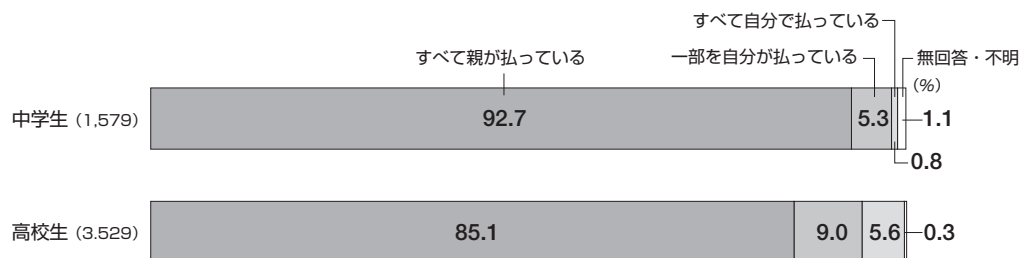
中・高校生に「毎月の携帯電話の料金は、誰が払っていますか」とたずねたところ、「すべて親が払っている」と回答したのは、中学生92.7%、高校生85.1%であった。

### ◆ 高校生では「すべて親が払っている」割合が下がる

「毎月の携帯電話の料金は、誰が払っていますか」とたずねた結果（設問は中・高校生のみ対象）、「すべて親が払っている」と回答したのは、中学生92.7%、高校生85.1%であった。また「すべて自分で払っている」と回答した中学生は0.8%だが、高校生は5.6%となった（図1-1-5）。学年別にみると、高1生よりも高2生のほうが、「すべて自分で払っている」割合が高くなる（高1生4.2%→高2生7.2%）（図1-1-6）。

一部の高校生は、アルバイトで収入を得られるようになることが関係している（図1-1-7）。アルバイトをしている高校生は今回の調査回答者の1割程度であるが、携帯電話の料金を「すべて自分で払っている」という回答は24.7%（していない人は3.2%）、「一部を自分が払っている」は18.9%（していない人は7.7%）と、電話料金の負担率が高い。また高校生は、保護者による携帯電話利用への関与（注意や問いかけなど）を避けたい心理もあると推察される。

図1-1-5 携帯電話の料金支払者（学校段階別）

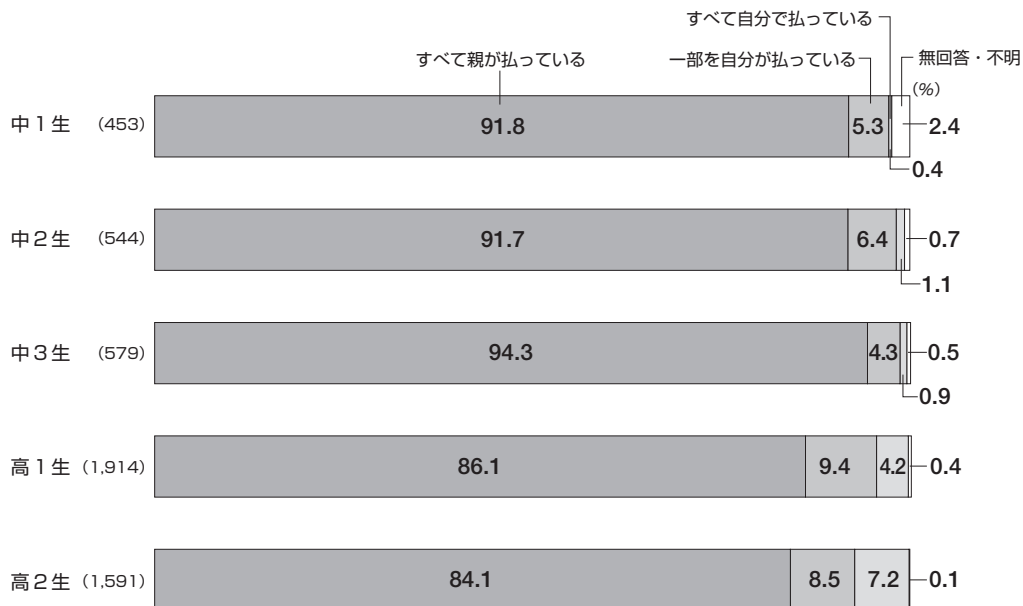


注1) 「あなたは携帯電話を持っていますか」の設問に「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。

注2) この設問は、中・高校生のみなたずねた。

注3) ( ) 内はサンプル数。

図1-1-6 携帯電話の料金支払者（学年別）

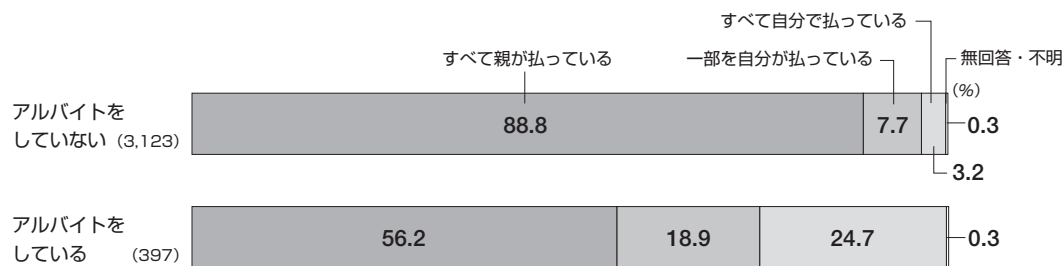


注1) 「あなたは携帯電話を持っていますか」の設問に「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。

注2) この設問は、中・高校生のみにしたずねた。

注3) ( ) 内はサンプル数。

図1-1-7 携帯電話の料金支払者（高校生／アルバイトの有無別）



注1) 「あなたは携帯電話を持っていますか」の設問に「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。

注2) この設問は、中・高校生のみにしたずねた。

注3) 「アルバイトをしている」は、「次のようなことを週に何日くらいしていますか」という設問で高校生のみにしたずねた「アルバイトをする」という項目に、「1日」「2日」「3日」「4日」「5日以上」と回答した人。「アルバイトをしていない」は、「しない」と回答した人。

注4) ( ) 内はサンプル数。

## 5 携帯電話に登録された連絡先

小学生は「30人以下（「11～30人」＋「10人以下」）」の登録が67.2%。中学生は「30人以下」の登録が39.4%。高校生は「30人以下」の登録が11.3%である。学校段階があがるにつれて連絡先の登録件数が増える。

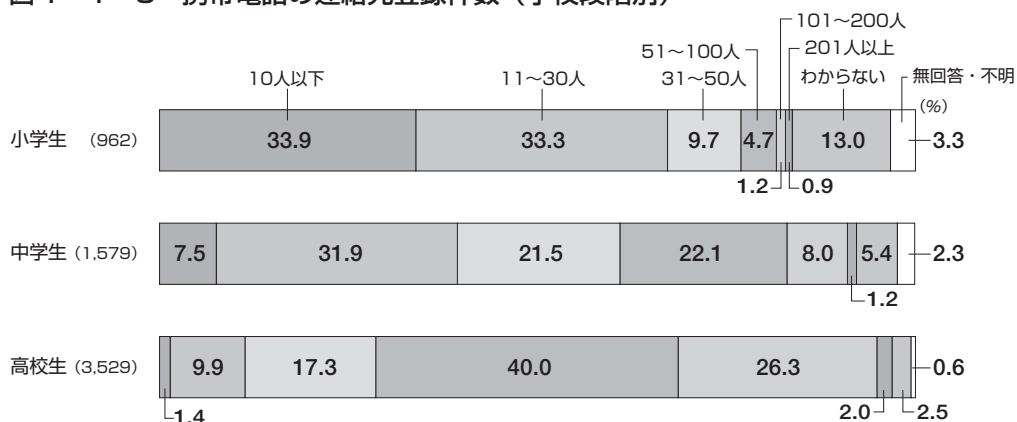
### ◆ 高校生女子の約3人に1人は「101人以上」を登録

次に、携帯電話に登録されている連絡先の件数をみてみよう（図1-1-8）。携帯電話の所有者に、「あなたの携帯電話には、だいたい何人くらいの連絡先が登録されていますか」とたずねた。小学生でもっとも多かったのは「10人以下」の33.9%。次いで「11～30人」33.3%で、この2つをあわせた「30人以下」が67.2%であった。中学生でもっとも多かったのは「11～30人」で31.9%である。ただし「51～100人」が22.1%、「31～50人」が

21.5%となっており、小学生よりも登録件数が増える傾向がある。高校生でもっとも多かったのは、「51～100人」で40.0%。次いで、「101～200人」が26.3%と、中学生よりも登録件数が増える傾向にある。

性別にみると（図1-1-9）、どの学校段階でも女子のほうが男子よりも登録件数が多いことがわかる。なかでも高校生女子の33.1%は「101人以上（「101～200人」＋「201人以上」）」を登録していると回答しており、携帯電話による他者とのつながりの広がりがうかがえる。

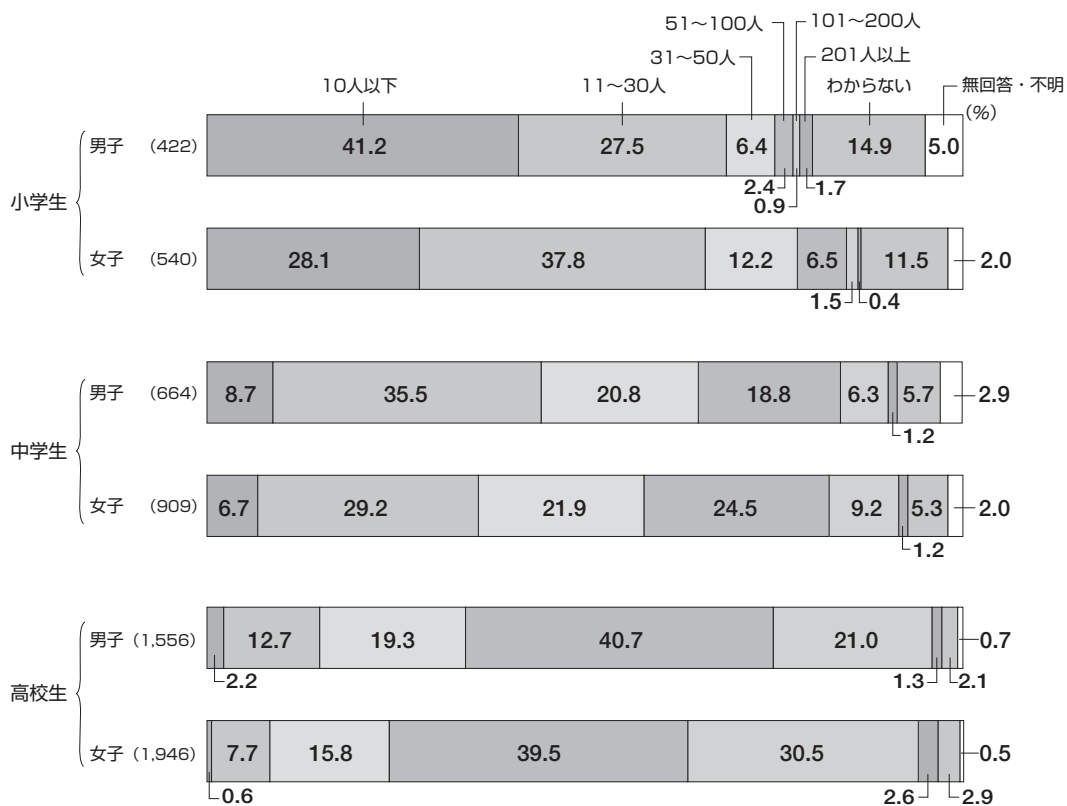
図1-1-8 携帯電話の連絡先登録件数（学校段階別）



注1) 「あなたは携帯電話を持っていますか」の設問に「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。

注2) ( ) 内はサンプル数。

図1-1-9 携帯電話の連絡先登録件数（学校段階別／性別）



注1) 「あなたは携帯電話を持っていますか」の設問に「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。

注2) ( ) 内はサンプル数。

## 6 携帯電話使用のきっかけ

「あなたが携帯電話を使うようになったきっかけは、次のどれにあたりますか」との設問で、「親に持つように言われた」と「どちらかといえば親に持つように言われた」の回答を足した割合は、小学生57.3%、中学生32.0%、高校生20.7%であった。

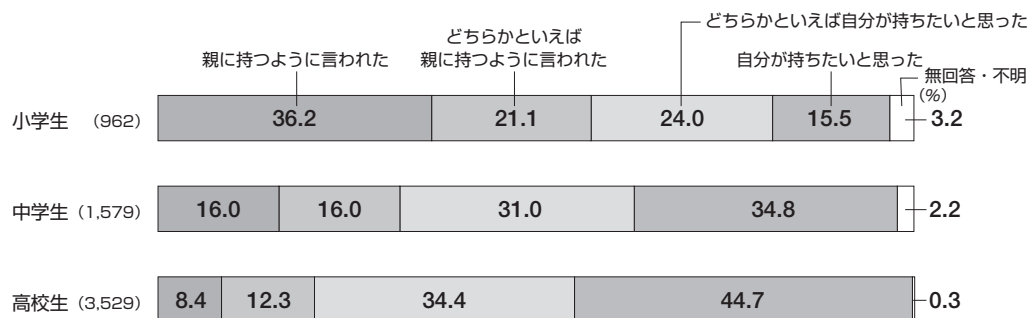
### ◆ 小学生の携帯使用のきっかけは親のすすめが6割

次に、携帯電話を使用するようになったきっかけをみてみよう（図1-1-10）。「あなたが携帯電話を使うようになったきっかけは、次のどれにあたりますか」との設問で、「親に持つように言われた」と「どちらかといえば親に持つように言われた」の回答を足した割合は、小学生57.3%、中学生32.0%、高校生20.7%となっている。一方、「自分が持ちたいと思った」と「どちらかといえば自分が持ちたいと思った」の回答を足した割合は、小学生39.5%、中学生65.8%、高校生79.1%である。小学生の約6割が親のすすめがき

っかけと回答しており、これは高校生の約3倍にあたる。

また、学年ごとの性別でみると中2生以外のすべての学年で、男子のほうが親にすすめられた割合が高い（図1-1-11）。とくに小6生では12.1ポイントも男子のほうが高い。携帯電話を所有したいという願望は、女子のほうが高い（第1章第4節参照）ことから、女子には、自ら直接「ほしい」と口に出す傾向があるようである。また、女子は友だちとのコミュニケーションのツールとして「持ちたい」と思い、男子は塾通いなどの際の連絡ツールとして「持たされる」のかもしれない。

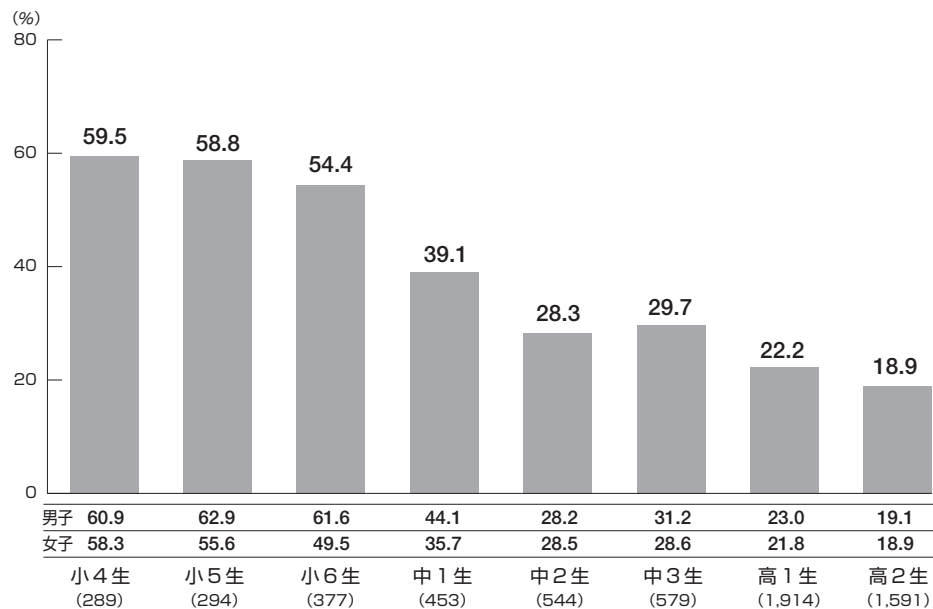
図1-1-10 携帯電話の利用のきっかけ（学校段階別）



注1) 「あなたは携帯電話を持っていますか」の設問に「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。

注2) ( )内はサンプル数。

図1-1-11 携帯電話の利用のきっかけ（学年別、学年別／性別）



注1) 「あなたは携帯電話を持っていますか」の設問に「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。

注2) 「親に持つように言われた」+「どちらかといえば親に持つように言われた」の%。

注3) ( ) 内はサンプル数。なお、学年別の性別でのサンプル数については、以下のとおり。男子(小4生138人、小5生132人、小6生151人、中1生179人、中2生241人、中3生243人、高1生841人、高2生713人)、女子(小4生151人、小5生162人、小6生226人、中1生272人、中2生301人、中3生336人、高1生1,070人、高2生874人)。

## 携帯電話の利用についての意識

### 1 携帯電話の利用についての意識

「携帯電話を使うのが楽しい」は中・高校生とも携帯電話利用者の9割弱。「携帯電話で知らない人とやりとりするのは怖い」は7割。

#### ◆ 高校生の79.6%が「携帯電話はいつでも必要な情報を調べることができて便利」

本節では、携帯電話の利用についての意識や気にしていることに関してたずねた。その結果についてまとめる。

携帯電話の所有者に対して、利用にかかわる意識をたずねた(図1-2-1)。学校段階別にみると、中・高校生ともに、9割弱が「携帯電話を使うのが楽しい(「とてもそう」+「まあそう」、以下同)と感じている一方で、7割が「携帯電話で知らない人とやりとりするのは怖い」と思っている。「携帯電話はいつでも必要な情報を調べることができて便利だと思う」は、中学生では65.8%なのに対して、高校生では79.6%と高くなる。また、6割程度が「絵文字は気持ちを伝えるのに欠かせない」と回答しており、携帯電話を用いたコミュニケーションの特徴の一端が垣間見られる。

「メールが来たらすぐに返事を出す」は、中学生71.3%、高校生62.3%。「直接話すよりもメールのほうが気持ちを伝えやすい」は、中学生41.5%、高校生32.0%であった。ともに中学生のほうが高校生よりも高かった。

逆に、高校生の回答結果が中学生よりも高かったのは、前述の「携帯電話はいつでも必要な情報を調べることができて便利だと思う」に加えて、「携帯電話がいつも手元にないと不安だ」(中学生41.1%<高校生49.8%)、「携

帯電話を使っていると時間を忘れる」(中学生34.7%<高校生47.7%)などがある。携帯電話に便利さや不安を感じたり、使っていると時間を忘れると感じたりするのは、10代後半へと向かう高校生と、高校生になる前の中学生との成長段階の違いによるのかもしれない。

#### ◆ 「携帯電話を使うのが楽しい」女子は、中学生91.2%、高校生92.3%

性別にみると(図1-2-2、3)、「携帯電話を使うのが楽しい」のは、中学生では男子78.8%、女子91.2%、高校生では男子80.7%、女子92.3%となっている。いずれも10ポイント以上、女子のほうが「楽しい」と感じている。携帯電話所有のきっかけも、女子は自らほしいという層が多く、男子は親にすすめられて持つようになる傾向があり(第1章第1節参照)、女子のほうが携帯電話を満足しながら使っているようである。

「携帯電話で知らない人とやりとりするのは怖い」のは、中学生では男子67.5%、女子75.2%、高校生では男子71.2%、女子76.8%である。中・高校生ともに女子のほうが知らない人への警戒心があるようである。しかし裏返して言えば、男子の約30%、女子の約25%が知らない人とのやりとりを「怖くない」と感じているとの回答結果であり、警戒心の少ない層の割合が高いのではないかとの印象をうける。

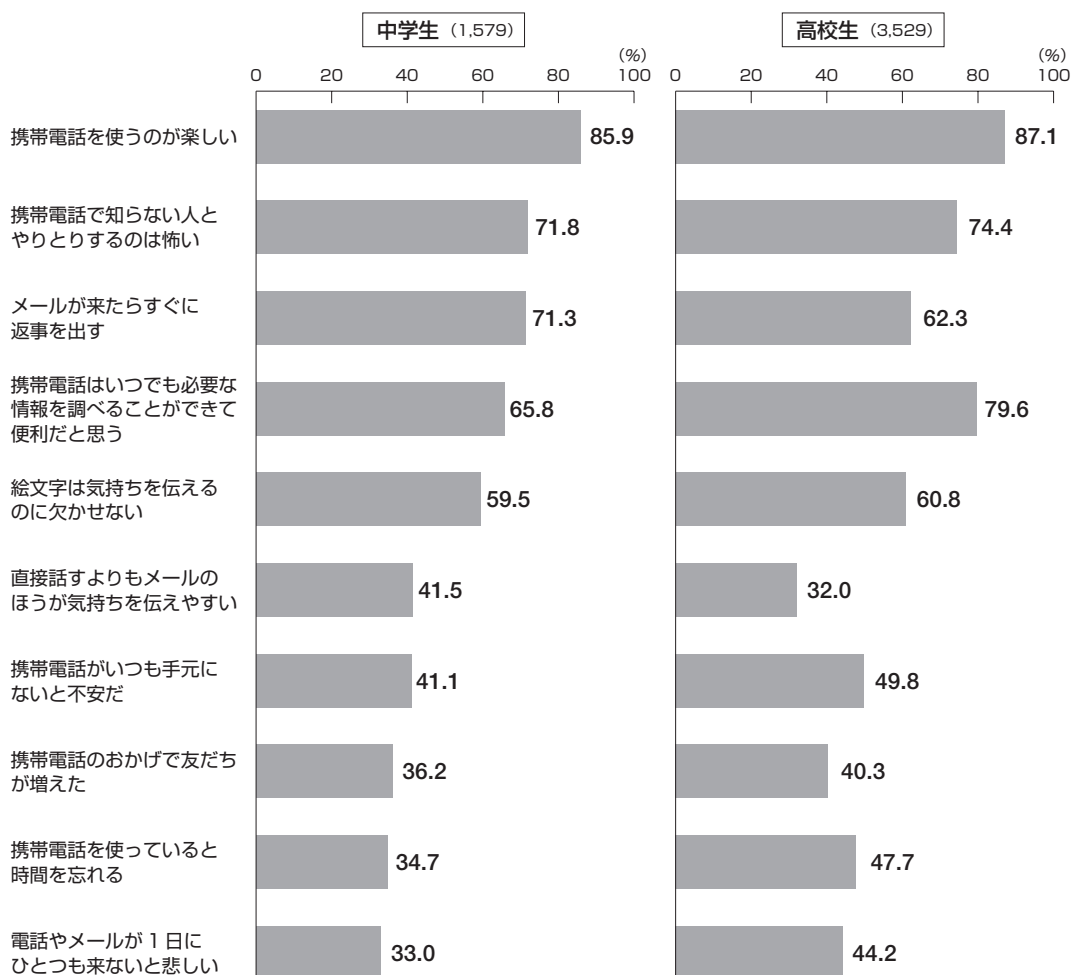


## ◆「直接話すよりもメールのほうが気持ちを伝えやすい」は中学生女子の44.5%

「メールが来たらすぐに返事を出す」は、中学生では男子68.5%、女子73.3%、高校生では男子64.4%、女子60.5%。「直接話すよりもメールのほうが気持ちを伝えやすい」の回答は、中学生は男子37.4%、女子44.5%、高校生は男子30.9%、女子33.0%となった。い

ずれも中学生女子の結果が目立つ。中学生の女子は「絵文字は気持ちを伝えるのに欠かせない」の数値も71.3%と高い（中学生男子43.7%、高校生男子51.1%、高校生女子68.5%）。多くの女子中学生にとって、携帯電話のメールは日常生活における重要なコミュニケーションツールとなっている。この設問は小学生にはたずねていないが、彼らが年齢を重ねたときにどのような回答結果となるのか興味深い。

図1-2-1 携帯電話の利用についての意識（中・高校生）



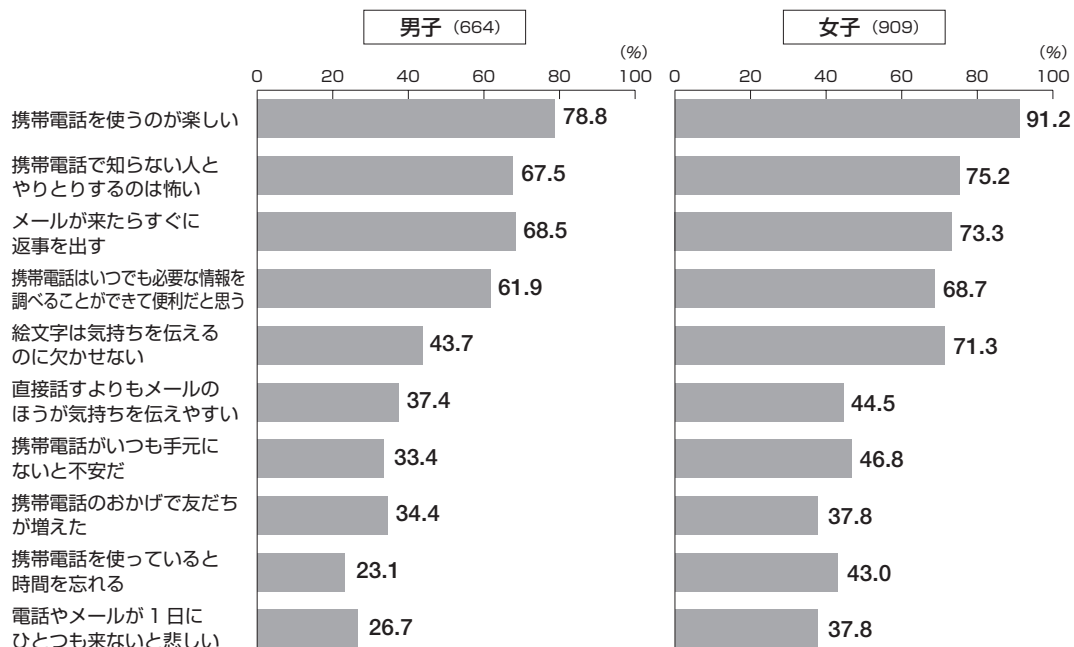
注1) 「あなたは携帯電話を持っていますか」の設問に「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。

注2) 「とてもそう」+「まあそう」の%。

注3) この設問は、中・高校生のみにしたずねた。

注4) ( ) 内はサンプル数。

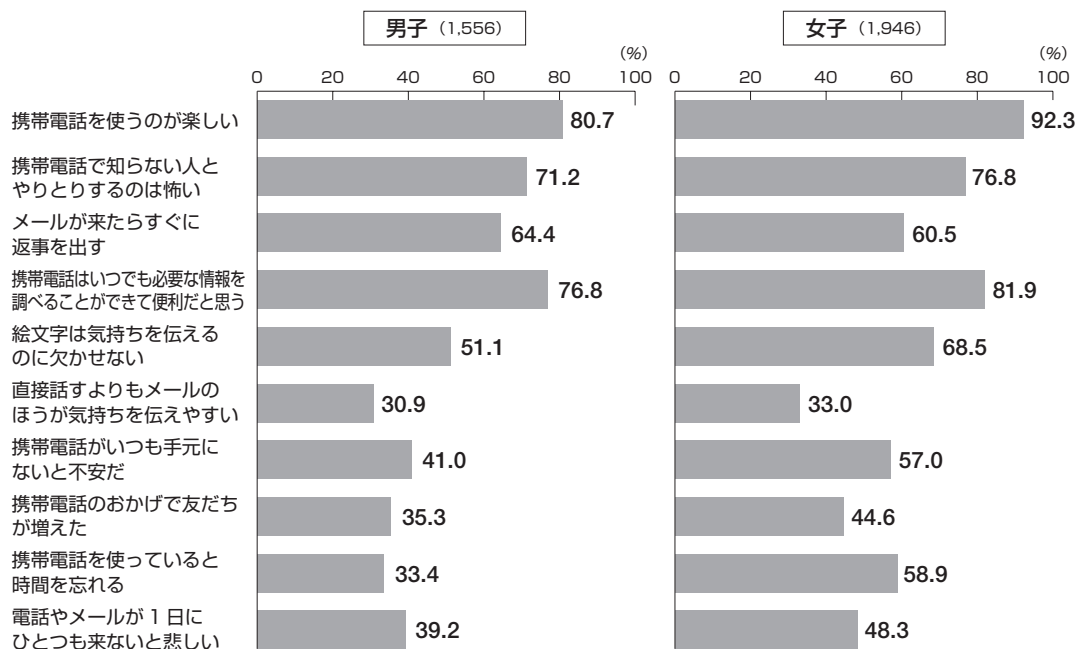
図 1-2-2 携帯電話の利用についての意識（中学生／性別）



注 1) 「あなたは携帯電話を持っていますか」の設問に「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。

注 2) 「とてもそう」+「まあそう」の%。 注 3) この設問は、中・高校生のみにあずねた。 注 4) ( ) 内はサンプル数。

図 1-2-3 携帯電話の利用についての意識（高校生／性別）



注 1) 「あなたは携帯電話を持っていますか」の設問に「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。

注 2) 「とてもそう」+「まあそう」の%。 注 3) この設問は、中・高校生のみにあずねた。 注 4) ( ) 内はサンプル数。

◆ 中学生は成績下位層、高校生では  
進路多様校に多い「携帯電話が  
いつも手元にないと不安」

成績・高校偏差値層別にみると（表1-2-1）、「携帯電話を使うのが楽しい」中学生は、成績上位層86.0%、中位層85.2%、下位層86.5%で差がみられない。高校生は、進学校83.8%、中堅校87.6%、進路多様校89.2%で、進学校がやや低い。「携帯電話で知らない人とやりとりするのは怖い」中学生は、成績上位層75.6%、中位層73.1%、下位層68.3%で下位層がやや低い。高校生は、進学校77.9%、中堅校75.0%、進路多様校70.4%で、進路多様校がやや低い結果となった。

次いで「メールが来たらすぐに返事を出す」中学生は、成績上位層68.3%、中位層68.3%、下位層75.3%で、下位層が高い。高校生は、進学校59.5%、中堅校62.0%、進路多様校

65.1%で、進路多様校が高い。「直接話すよりもメールのほうが気持ちを伝えやすい」の回答は、中学生では、成績上位層37.7%、中位層41.9%、下位層43.5%で、上位層の数値が低い。高校生は、進学校26.7%、中堅校31.1%、進路多様校38.0%で、進学校に通う生徒の数値が低い。

成績・高校偏差値層別でみたときに気になるのは、「携帯電話がいつも手元にないと不安だ」の結果である。中学生では、成績上位層35.3%、中位層39.2%、下位層47.3%と、下位層のおよそ2人に1人が不安だと答えている。高校生では、進学校44.4%、中堅校47.0%、進路多様校59.3%と、進路多様校の生徒の約6割が不安だと答えている。携帯電話への傾注の度合いや心理（依存）と、学業成績との間には関係があると推察される。

表1-2-1 携帯電話の利用についての意識（中・高校生／成績・高校偏差値層別）

	(%)					
	上位 (467)	中学生 中位 (454)	下位 (618)	進学校 (854)	高校生 中堅校 (1,671)	進路多様校 (1,004)
携帯電話を使うのが楽しい	86.0	85.2	86.5	83.8	87.6	89.2
携帯電話で知らない人とやりとりするのは怖い	75.6	73.1	68.3	77.9	75.0	70.4
メールが来たらすぐに返事を出す	68.3	68.3	75.3	59.5	62.0	65.1
携帯電話はいつでも必要な情報を調べることができて便利だと思う	62.1	64.7	69.6	71.9	79.7	86.0
絵文字は気持ちを伝えるのに欠かせない	57.6	57.9	61.7	54.4	62.3	63.6
直接話すよりもメールのほうが気持ちを伝えやすい	37.7	41.9	43.5	26.7	31.1	38.0
携帯電話がいつも手元にないと不安だ	35.3	39.2	47.3	44.4	47.0	59.3
携帯電話のおかげで友だちが増えた	29.3	32.0	45.0	32.5	39.6	48.2
携帯電話を使っていると時間を忘れる	29.8	33.4	39.2	43.5	47.4	51.6
電話やメールが1日にひとつも来ないと悲しい	30.0	32.1	35.6	38.5	43.0	51.3

注1) 「あなたは携帯電話を持っていますか」の設問に「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。

注2) 「とてもそう」＋「まあそう」の%。

注3) この設問は、中・高校生のみにしたずねた。

注4) ( ) 内はサンプル数。

## 2 携帯電話の利用で気にしていること

「知らない人からの電話に出ない」ことを気にしているのは、中・高校生とも携帯電話所有者の8割弱。「友だちといるときは携帯電話に出ない」は、3割程度ともっとも少ない。また、親が自分の携帯電話の使い方を「知っていると思う」層は、中・高校生ともにすべての項目で「気にしている」割合が高い。

### ◆ 携帯電話の利用で気にしていることは、中・高校生の間で差はない

学校段階別でみるととき（図1-2-4）、中・高校生の携帯電話の所有者が、使い方について「気にしている（とても+まあ）」と回答した割合でもっとも高かったのは「知らない人からの電話に出ない」で、中学生77.4%、高校生77.0%であった。次いで、「禁止されている場所では電源を切る」「携帯電話を使いすぎない」も7割台で続いており、使用場所や方法は気にしているようだ。一方でもっとも少なかったのは「友だちといるときは携帯電話に出ない」で、中・高校生ともに「気にしている」と回答したのは3割程度だった。また、「勉強中は使わない」という回答は中・高校生ともに6割だった。

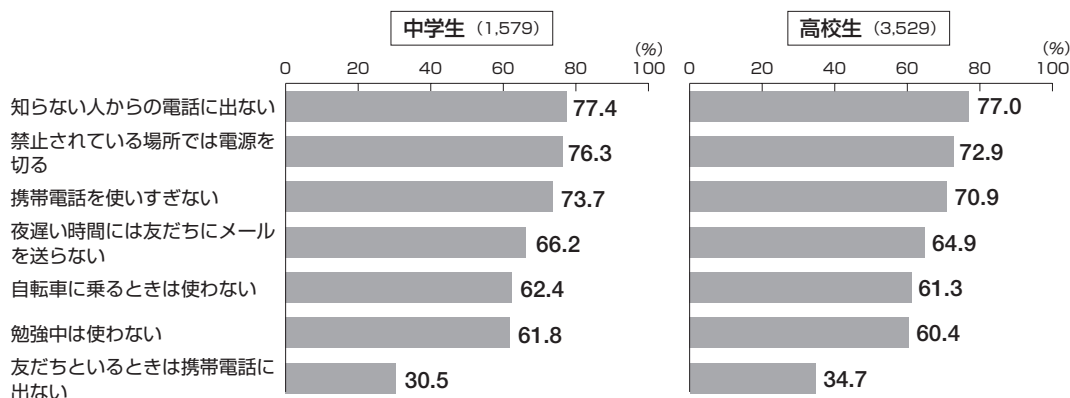
もっとも気にしていることから、さほど気にしていないことの順位は、中・高校生の間

でみると変わらない。特別大きな差のある項目もない。

### ◆ 性別では、「知らない人からの電話に出ない」のは女子のほうが多い

性別にみると（図1-2-5、6）、「知らない人からの電話に出ない」は、中学生では男子71.5%、女子81.6%、高校生では男子72.4%、女子80.8%で、いずれも女子のほうが「気にしている」割合が高い。これは「携帯電話で知らない人とやりとりするのは怖い」と同様に（図1-2-2、3参照）、男子よりも女子のほうが「知らない人への警戒心」をより強く持っていることを示す結果となっている。しかしながら逆に、中・高校生ともに、男子の約3割、女子の約2割が、知らない人からの電話であっても「出る」ということでもある。こうした結果は、多くの中・高校生

図1-2-4 携帯電話の利用で気にしていること（中・高校生）



注1) 「あなたは携帯電話を持っていますか」の設問に「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。

注2) 「とても気にしている」+「まあ気にしている」の%。

注3) この設問は、中・高校生のみならずねた。注4) ( )内はサンプル数。

が、むやみに他者へのネガティブな想像をしないという意味では決して悪いことではないともいえようが、やはり危うさでもあろう。

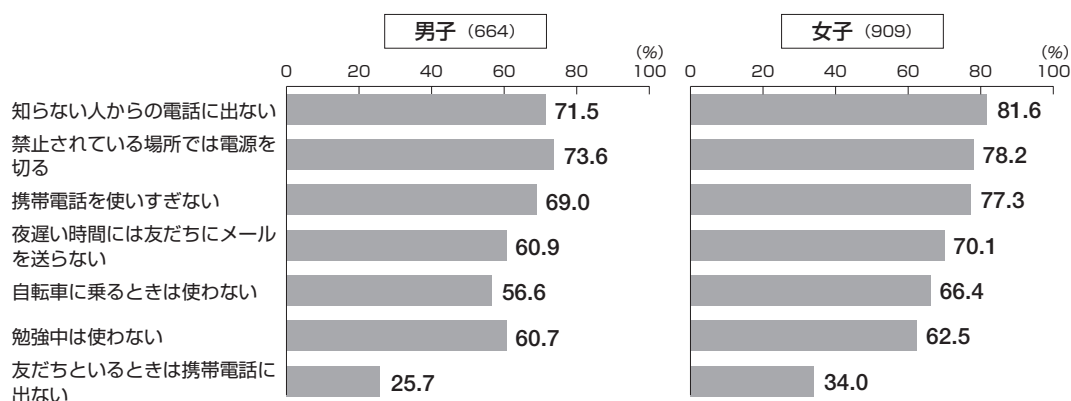
「禁止されている場所では電源を切る」については、中学生では男子73.6%、女子78.2%、高校生では男子67.8%、女子77.1%といずれも女子のほうが高い。とくに高校生男子のおよそ3人に1人は気にしないという結果である。

「友だちといるときは携帯電話に出ない」は、

中学生は男子25.7%、女子34.0%、高校生は男子29.2%、女子39.1%であった。それぞれの数値は決して高いものではないが、高校生のほうが、対人関係における気配りができるようになる証左といえるかもしれない。

このほかの結果（「携帯電話を使いすぎない」「夜遅い時間には友だちにメールを送らない」「自転車に乗るときは使わない」）をみても、中・高校生ともに男子よりも女子のほうが携帯電話の利用に際し、さまざまな点に

図1-2-5 携帯電話の利用で気にしていること（中学生／性別）

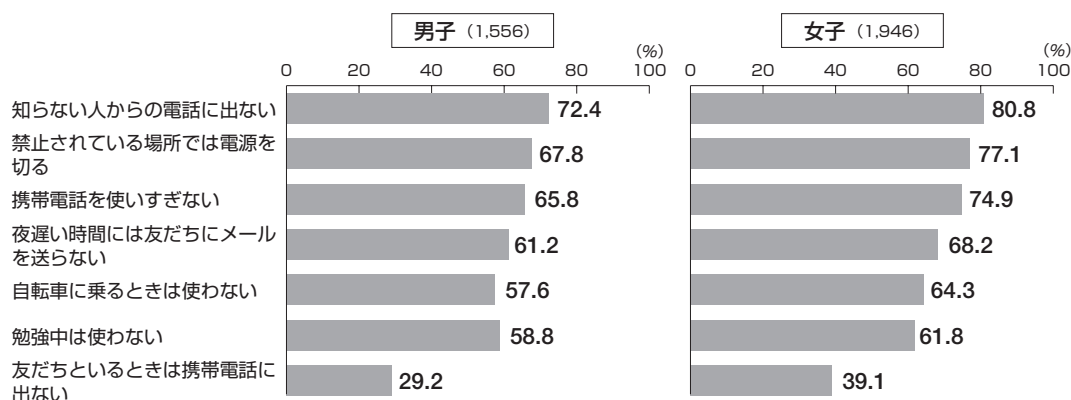


注1) 「あなたは携帯電話を持っていますか」の設問に「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。

注2) 「とても気にしている」+「まあ気にしている」の%。

注3) この設問は、中・高校生のみにあずねた。注4) ( )内はサンプル数。

図1-2-6 携帯電話の利用で気にしていること（高校生／性別）



注1) 「あなたは携帯電話を持っていますか」の設問に「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。

注2) 「とても気にしている」+「まあ気にしている」の%。

注3) この設問は、中・高校生のみにあずねた。注4) ( )内はサンプル数。

気をつけている様子がかがえるものとなった。ただ、「勉強中は使わない」の回答のみ、中学生は男子60.7%、女子62.5%、高校生は男子58.8%、女子61.8%となっており、中・高校生とも性別による差があまりみられなかった。しかしながら、中・高校生の男女いずれもが、およそ4割は勉強中であっても気にしないと回答しているともいえる。いわゆる「ながら（～しながら）」が常態となっている層の存在がかがえる。

### ◆ 携帯電話の利用で気にしていることは、中学生は成績上位層、高校生では進学校の生徒に多い

成績・高校偏差値層別でみるとき（表1-2-2）、「知らない人からの電話に出ない」ことを気にしているのは、中学生では上位層81.1%、中位層80.0%、下位層73.6%。高校生では進学校79.6%、中堅校80.4%、進路多様校69.0%。「禁止されている場所では電源

を切る」は、中学生で上位層82.5%、中位層76.0%、下位層71.0%。高校生では進学校74.0%、中堅校75.4%、進路多様校67.9%。「携帯電話を使いすぎない」は、中学生では上位層78.8%、中位層75.6%、下位層68.4%。高校生では進学校76.7%、中堅校72.0%、進路多様校63.9%。「友だちといるときは携帯電話に出ない」は、中学生では上位層36.4%、中位層29.1%、下位層27.0%、高校生では進学校37.9%、中堅校35.0%、進路多様校31.6%。

いずれの設問も中学生では成績上位層の「気にしている」意識が高く、下位層の意識が低い。高校生では進学校の生徒の意識が高く、進路多様校の生徒の意識が低い結果となった。

### ◆ 親が携帯電話の使い方を「知らないと思う」中・高校生の約5割が「勉強中も使っている」

携帯電話の未成年者の契約においては、そ

表1-2-2 携帯電話の利用で気にしていること（中・高校生／成績・高校偏差値層別）

	（%）					
	中学生			高校生		
	上位 (467)	中位 (454)	下位 (618)	進学校 (854)	中堅校 (1,671)	進路多様校 (1,004)
知らない人からの電話に出ない	81.1	80.0	73.6	79.6	80.4	69.0
禁止されている場所では電源を切る	82.5	76.0	71.0	74.0	75.4	67.9
携帯電話を使いすぎない	78.8	75.6	68.4	76.7	72.0	63.9
夜遅い時間には友だちにメールを送らない	72.0	65.9	62.0	69.9	66.6	57.6
自転車に乗るときは使わない	67.9	65.9	55.3	60.7	67.8	51.0
勉強中は使わない	65.5	64.1	56.8	63.5	61.8	55.6
友だちといるときは携帯電話に出ない	36.4	29.1	27.0	37.9	35.0	31.6

注1) 「あなたは携帯電話を持っていますか」の設問に「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。

注2) 「とても気にしている」＋「まあ気にしている」の%。

注3) この設問は、中・高校生のみにあずねた。

注4) ( )内はサンプル数。

の事実を親権者が知らない、という事態がないように、契約時の店頭への同伴来店や、自筆の親権者同意書の提出などが定められている。しかしながら、契約後の実際の使い方については、監督者たる親が知っているか、放任しているかで、子どもの生活に違いが生じているのではないかと。

そこで、「あなたの親は、あなたがどのように携帯電話を使っているかを知っていると思いますか」という設問（第1章第3節参照）で、「知っていると思う」（「よく知っていると思う」＋「まあ知っていると思う」）層と、「知らないと思う」（「あまり知らないと思う」＋「まったく知らないと思う」）層とに分け、携帯電話の利用について気にしていることが、どのように異なるのかをみた。

「親が使い方を知っていると思う」と答えた中・高校生のほうが、「親が使い方を知らないと思う」中・高校生よりも、すべての項目において携帯電話の利用について「気にし

ている」ことがわかった（表1-2-3）。この結果からは、「親が使い方を知らないと思う」中・高校生の約4割が「携帯電話を使いすぎない」「夜遅い時間に友だちにメールを送らない」ことを気にしないことがわかる。また、約5割が「勉強中は使わない」「自転車に乗るときは使わない」ことを気にしないことがわかる。

さまざまに指摘される携帯電話利用の危険性や有害な部分から、子どもを守るにはどうすればよいのかを、この結果は示唆しているように思われる。パソコンの利用と同様、リビングなどの家族の目の届く場所で使わせる、使用に関して状況の確認や把握に努める、携帯電話でのやりとりにとどまらない家族同士の会話を意識するといったことで、子どもの心がけにおよぼす影響がずいぶん違うだろう。買ったらずいばなし、与えたら与えっぱなしでいることのもつ負の可能性についても、真剣に議論がなされるべきであろう。

表1-2-3 携帯電話の利用で気にしていること  
(中・高校生／携帯電話の使い方についての親の認知別)

	中学生		高校生	
	知っていると思う (1,218)	知らないと思う (341)	知っていると思う (2,318)	知らないと思う (1,188)
知らない人からの電話に出ない	80.8	68.1	80.0	71.2
禁止されている場所では電源を切る	79.7	66.8	78.0	63.3
携帯電話を使いすぎない	78.2	59.8	76.4	60.1
夜遅い時間には友だちにメールを送らない	70.4	53.3	69.6	56.4
自転車に乗るときは使わない	67.3	46.4	66.7	50.5
勉強中は使わない	65.3	50.7	65.4	50.8
友だちといるときは携帯電話に出ない	33.0	22.9	38.0	28.3

注1) 「あなたは携帯電話を持っていますか」の設問に「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。

注2) 「とても気にしている」＋「まあ気にしている」の％。

注3) 「知っていると思う」は、携帯電話の使い方についての親の認知の設問で、「よく知っていると思う」「まあ知っていると思う」と回答した人。「知らないと思う」は、「あまり知らないと思う」「まったく知らないと思う」と回答した人。

注4) この設問は、中・高校生のみならずねた。

注5) ( ) 内はサンプル数。

## 携帯電話の利用に対する親のかかわり

携帯電話の所有者のうち、親と使用ルールを決めて守っているのは小学生で半数強、中学生で3人に1人、高校生で5人に1人。

携帯電話は非行や逸脱行動を促進するメディアであるといわれることがある。危険な外部の世界と子どもたちがダイレクトにつながり、親がかつてのようなブロックの機能を果たしづらい。また、携帯電話の長時間使用が、学習時間の減少につながりうるという面も、親や教師たちにとっては心配の種であろう。携帯電話がますます子どもたちの生活に入り込んでいくなか、危険や過度の依存を回避し、携帯電話のもつ利便性や楽しさを彼らが享受できるようにするためには、親の関与は不可欠なのではないかと考え、本調査では、親の使用状況の認知度合いや家庭でのルールの有無などを調べてみた。

### ◆ 成績のよい子どもの親は使用状況を知っている

親が携帯電話の使用状況を知っていると子どもが思っているかどうかを、学校段階別に示したのが図1-3-1である。小学生のうち親が子どもの使用状況をよくみているが、中学校、高校と学校段階があがるタイミングで、しだいに手綱を緩めていく様子が見てとれる。また、学年が低いほど外出時の安全確認のためだけに親が持たせるようなケースも多く、「知っていると思う」割合が高いのは当然であるともいえるだろう。小学生では「知っていると思う」（「よく知っていると思う」＋「まあ知っていると思う」）が87.4%であるが、中学生では77.1%、高校生では65.7%となっている。

次に、どんな子どもが、「親は自分の使用状況を認知している」と感じているのかをみてみたい。まずは成績との関係を見た。図1-3-2に示す通り、小・中学生ともに成績上・中位層のほうが親が使い方を知っていると思っている傾向があった。高校生については、進学校>中堅校>進路多様校の順で親が知っていると思う割合が高く、小・中学生でみられた傾向は、高校生の家庭でも保持されていることが想像できる。

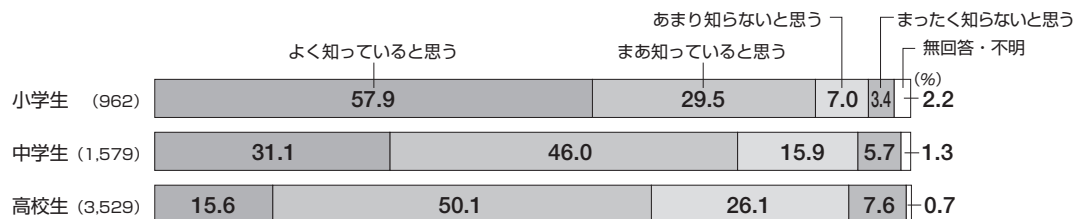
### ◆ 利用が盛んな子どものほうが親の認知が低い

親による使用状況の認知は、子どものどのような行動や意識と関係しているのだろうか。表1-3-1では中学生について、今回の調査でたずねたブログ・掲示板やプロフの利用状況ごとに（第3章第3節参照）、親の認知の違いを示している。利用者は、いずれの項目においても、そうでない子どもより親の携帯電話使用状況の認知が低い。「ブログや掲示板を読む」「友だちのブログや掲示板に書きこみをする」などの利用を「しない」と答えた中学生のうち、親が携帯電話の使用状況を「よく知っていると思う」と答えた割合は30%台であったのに対し、「携帯電話だけで」と答えた中学生の場合には10%台にとどまった。

また、図表は省略したが、親の認知が低い子どもは、携帯電話の使用時間が長く、就寝時刻が遅い傾向もみられた。



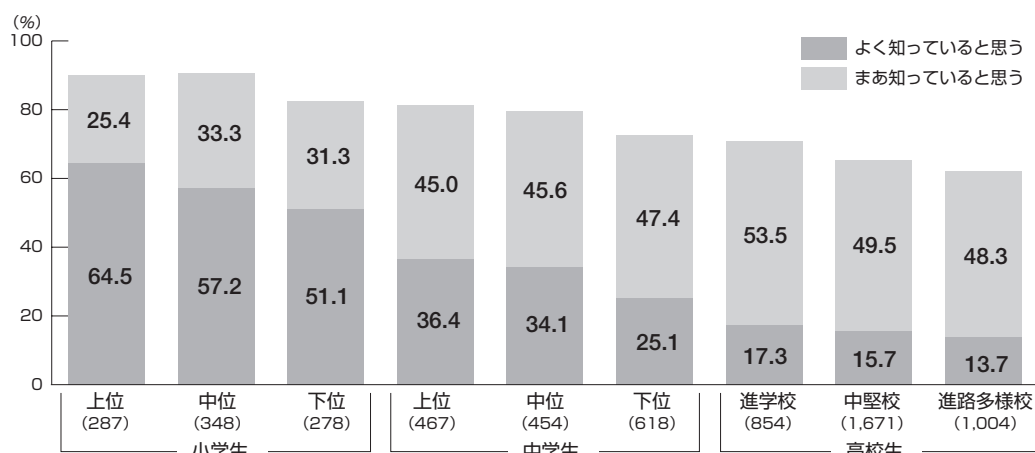
図1-3-1 携帯電話の使い方についての親の認知（学校段階別）



注1) 「あなたは携帯電話を持っていますか」の設問に「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。

注2) ( ) 内はサンプル数。

図1-3-2 携帯電話の使い方についての親の認知（学校段階別／成績・高校偏差値層別）



注1) 「あなたは携帯電話を持っていますか」の設問に「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。

注2) ( ) 内はサンプル数。

表1-3-1 携帯電話の使い方についての親の認知（中学生／ブログ・掲示板やプロフの利用状況別）

	(%)	
	しない	携帯電話だけにする
ブログや掲示板を読む	39.3 (699)	17.0 (300)
友だちのブログや掲示板に書きこみをする	36.3 (999)	15.5 (265)
知らない人のブログや掲示板に書きこみをする	33.7 (1,196)	15.4 (143)
自分のブログや掲示板をつくる	34.6 (1,173)	12.2 (180)
プロフを読む	37.7 (924)	16.8 (315)
自分のプロフをつくる	33.9 (1,204)	14.1 (185)

注1) 「あなたは携帯電話を持っていますか」の設問に「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。

注2) 「親は、あなたがどのように携帯電話を使っているかを知っているとと思いますか」の設問で「よく知っていると思う」と回答した%。

注3) ブログ・掲示板やプロフの利用に関する設問で、「ブログや掲示板を読む」から「自分のプロフをつくる」の6項目それぞれについて、「しない」と回答した人と、「携帯電話だけにする」と回答した人とを分けて比較した。なお、「パソコンだけにする」「パソコンと携帯電話の両方でする」「わからない」と回答した人は省略した。

注4) ( ) 内はサンプル数。

## ◆ 中・高校生で使用ルールを決めている家庭は半数以下

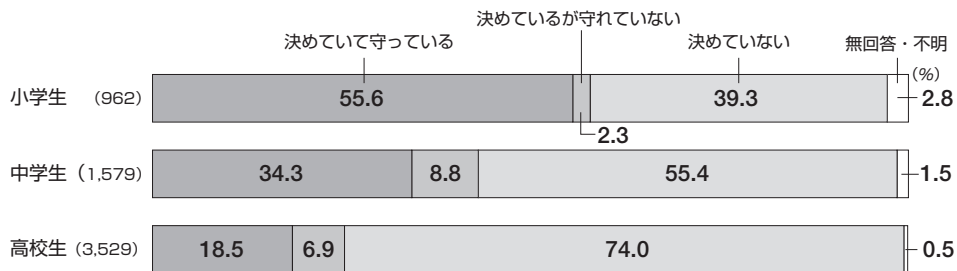
ここまで、親が子どもの携帯電話の使用状況を知っているかどうかをみてきたが、次に、ルールや約束事を決めているかどうかという、一歩踏み込んだかたちの関与の度合いを取り上げる。また、ルールや約束事があると答えた子どもには、それがどのようなものなのかを具体的に記述してもらった。

携帯電話の使い方について、親と何らかのルールや約束事があると答えている割合を、学校段階別に示したのが図1-3-3である。これによると小学生で57.9%と半数を超えている（「決めていて守っている」＋「決めていて守れていない」の％）。中学生になる

と、逆にルールや約束事を「決めていない」と答える割合が55.4%と半数を超える。高校生ではさらにその傾向が高まり、74.0%が「決めていない」と答えている。ルールや約束事を「決めていて守っている」のみに着目すると、小学生では55.6%、中学生では34.3%、高校生では18.5%となっている。

では、具体的にどのようなルールや約束事が決められているのだろうか。どの学校段階でも、「使用時間」「料金」「通話・メールの相手」に関するものが多くを占めているが、それらの重視の度合いは、学校段階によって異なっていた。学校段階ごとに特徴的なものを以下にあげる。

図1-3-3 携帯電話使用のルールの有無（学校段階別）



注1) 「あなたは携帯電話を持っていますか」の設問に「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。

注2) ( ) 内はサンプル数。

## ◇小学生

小学生に特徴的なのは、使用の場面や通話・メールの相手を親が厳しく管理するルールである。家族間の通話やメールが原則で、友だちとの通話・メールそのものを禁止するケースも多くみられた。もともと機能が限定された機種や、機能を限定できるモードを搭

載した子ども用携帯電話を使用しているケースも多く、実際の数値以上に親が使用をコントロールしている可能性がある。また、安全確認のために家に連絡することを約束するなど、「使いすぎ」への警戒でなく、必要なときに「使う」ことをルールとしているケースが多いことも、小学生の特徴である。

## ＜使用場面の限定＞

・けいたいをもつときは、1人で夜でかけたり、1人で遠くに行くときにだけもつ。

(小4男子)

・じゅくに行っている時しか、使ってはいけない。(小4女子)

## ＜使用時間＞

・9時(夜)になったら、ケータイをリビングに置く。(小6女子)

・けいたいでやるゲームは15分。(小5女子)

## ＜料金＞

・料金の上限は1,890円で、1,200円は母がはらい、それ以上は私がはらう。(小6女子)

・インターネットは料金がかかってしまうから使ってはいけない。(小5男子)

## ＜通話・メールの相手＞

・家族やおじいちゃんおばあちゃん以外とはれんらくとかメールをしない。(小5女子)

・知らない人には、メールアドレス・でんわ番号を教えない。(小4男子)

・友だちと電話番号をこうかんするときは、かならず親に言ってからにする。(小4女子)

・友だちには、でんわばんごうメールアドレスは、おしえない。(ママ、パパだけ。)

(小4女子)

・ふざい着しんがきたらひらかずさくじょすること。(小4女子)

## ＜機能の限定＞

・電話以外、ほかのきのうは、つかわない。(小4男子)

・ダウンロードは親に言ってきよかをもらってからする。(小5女子)

・けいいたいにロックがかかっていて、知らない人にはメールできない。(小6女子)

## ＜安全への配慮＞

・塾に行っているので終わったらお母さんに必ず電わすること。(小6女子)

・まいごのとき電話しなさい。(小4男子)

## ◇中学生

携帯電話を持つ中学生にとっては、携帯電話は生活の一部として深く入り込んでくるようだ。それに対応して、過度な使用で生活に差し支えることがないようにするためのルールが設定されている。自らルールを課している子どもがいたり、子ども自身で判断が必要なルールが出てきたりするの、中学生ならではといえよう。小学生と比べると、長時間

の使用や、使用料金が高額になるのを防ぐためのルールが増えてくる。通話・メールの相手は家族以外でも許されることが多いようだが、相手に制限を設けたり牽制したりするルールが散見された。また、友だち間のメールのやりとりで発生しがちなトラブルを防ぐような、アドバイスの内容も中学生以降に特有である。

### <使用場面の限定>

- ・家にいるときは、携帯電話で友だちに電話をかけない。(中1男子)
- ・連絡をとりあう以外の目的で使わない。(中2男子)
- ・勉強の時は部屋にもっていったらだめ。(中1女子)

### <使用時間>

- ・1日に携帯は1時間ぐらいにしなさい。(中1女子)
- ・夜は、携帯を親にあずけて、もしメール・電話がきたら携帯をもらうようにしている。(中2女子)

### <料金>

- ・料金1,000円までしか使わない(それ以上いくと、自動的に止められる)。(中2女子)
- ・月3,000円以内。(中3男子)
- ・月5,000円以内に料金をおさえる。(中3女子)
- ・パケットしほうだいの時以外はネットにアクセスしない。(中1男子)

### <通話・メールの相手>

- ・知らない人、番号からメールや電話がきたら、親に見せる。(中1女子)
- ・メールアドレスを交かんする時は親に言う。(中2女子)

### <通話・メールの内容>

- ・メールの内容を見られても文句を言わない。(中1男子)
- ・友だちとの会話に、悪口的なものはだめという約束。(例) うざい等。(中2女子)
- ・チェーンメールが来たらソクタイショ。親に相談。(中1女子)
- ・短い文で、送らないようにする。なるべく、長い文で…。(中1女子)
- ・メールは2通で、終わらせる。(中1女子)

### <機能の限定>

- ・へんなサイトに入らない。(中2女子)
- ・有害サイトを開かない。(中1男子)
- ・買い物禁止。(中1男子)
- ・勝手に、音楽をダウンロードしない。(中1女子)
- ・サイトの会員になるときは親に言って許可をもらう。(中1女子)

### <マナー>

- ・メールをしながら話をしたり、ごはんを食べたりしない。(中3男子)
- ・夜中など、相手のめいわくする時間にメール・電話はしない。(中1女子)

**<子ども自身の判断が含まれるルール>**

- ・ねるのがおそくなるので11時より後に携帯はつかわないと決めている。(中1男子)
- ・パケット代をちゃんと自分で考えて使う。(中1男子)
- ・出会い系はやらない(自分で決めた)。(中2女子)

**◇高校生**

料金の制限に関するルールの割合が中学生以上に増えることと、勉強に差し支えないようにするためのルールが多くみられるのが高校生の特徴である。使用する機能や通話・メールの相手に関するルールはかなり減るが、

その分、使用する時間が増えてしまいがちになるようで、他の生活に支障がないようにするためのルールが設定されていることが多い。また、明確なルール・約束事というよりは、心がけのようなものをあげる生徒がみられるのも、高校生ならではだ。

**<勉強を妨げないためのルール>**

- ・勉強時には電源を切って勉強に集中する。(高1男子)
- ・学校での成績が下がったら没収。勉強するときは、近くにおかない。(高1女子)
- ・テストの順位が落ちたらインターネットの使用禁止。(高1女子)
- ・勉強中は茶の間に置いておく。(高2男子)
- ・テスト1週間前から使用禁止。(高2女子)

**<料金>**

- ・お金をかけて、色々なソフトを買うのは月500円まで。(高1女子)
- ・パケット通信料を月1,000円以内に抑える。(高2男子)
- ・7,000円以内で料金をおさめること。(高2女子)
- ・月額を小遣い含めて15,000円。(高2男子)
- ・パケホじゃないし、リミット付きだから、一定の金額以上使うと、使えなくなる。だから、自分で金額を確認したり、メールをひかえたりするようにしている。(高1女子)

**<使用時間>**

- ・PM11時以降はメールをしない。充電は親の部屋で夜にする。(高1女子)
- ・21時～23時の間は使わない。(高1男子)

**<機能の限定>**

- ・PCサイトビューアはお金がかかるからみない。(高1女子)
- ・有料サイトへの接続禁止(プロフィールなど)。(高1女子)
- ・フィルタリング機能により悪質サイトへの出入ができない。(高1男子)

**<マナー>**

- ・人とはなしている時に携帯をひらかない。(高1女子)
- ・家族みんながいるスペース(居間など)では使用禁止。(高2女子)

**<心がけ>**

- ・TPOを守る。(高2女子)
- ・自分の良識に従うこと。(高1男子)

## ◆ 成績上位層ほど使用ルールを決めている

次に、携帯電話の使い方のルール・約束事の有無と、子どもの成績層との関連をみてみた(図1-3-4)。小学生の場合、成績上位層で、ルール・約束事がある子どもの割合は70.7% (「決めていて守っている」+「決めていないが守れていない」の%、以下同)であるのに対し、中位層では54.0%、下位層では50.7%となっており、とくに上位層において決めていた割合が高いが目立つ。こうした成績層による違いは、中学生でも同様の傾向である。ただし、中学生では、実際に守っているかどうかに着目すると、成績下位層では、「決めていないが守れていない」という子どもの割合も12.8%と少なくないことが目立つ。

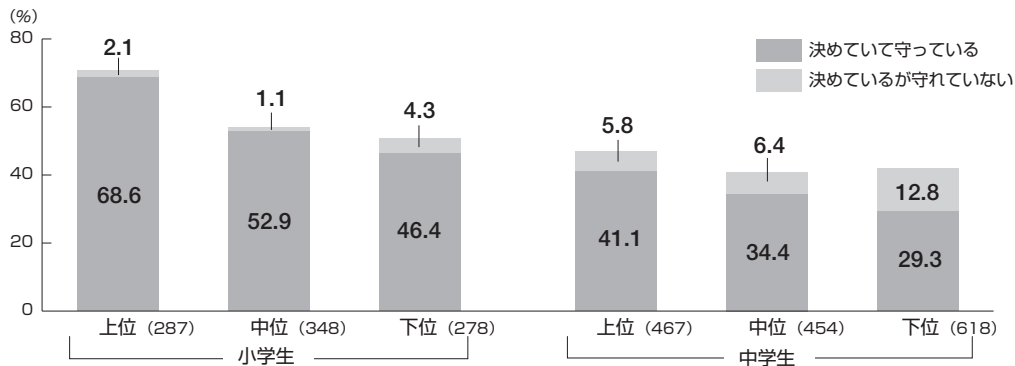
図1-3-5は、小学生について、地域別に値を示したものである。中都市では決めていた割合が48.9% (「決めていて守っている」+「決めていないが守れていない」の%、以下同)、郡部では44.7%とあまり差がないが、大都市では67.1%と、他の2地域に比べると突出している。なお、ここでは図示していないが、中学生、高校生においては、地域による差がほとんどみられなかった。小学生の場合、大都市では親が主導で携帯電話を持たされている子どもが断然多いことも影響しているのではないと思われる (「携帯電話を持つようになったきっかけ」は「親に持つように言われた」+「どちらかといえば親に持つように言われた」と答える割合は、大都

市で65.2%、中都市で50.3%、郡部で45.1%。図表省略)。その背景には、通塾や習い事等で外出の機会が多いこともあるだろう。

図1-3-6は、性別にルール・約束事の有無をみたものである。どの学校段階であっても、女子のほうがルール・約束事を決めている割合が高い。また、先にあげた自由記述の内容をみると、女子では通話・メールの相手に関するルールが多いという特徴がある。これは、全般に女子のほうが使用が活発であるために、必要に応じて設定されたという面があるためではないかと考えられる。ただ、親の認知度合いは性別による差があまりない。本節の前半でみてきた「あなたの親は、あなたがどのように携帯電話を使っているかを知っていると思いますか」という設問で、「よく知っていると思う」と答えた割合は中学生では男子31.6%、女子30.7%。高校生では男子17.7%、女子13.7%だった(図表省略)。

以上、子どもの携帯電話使用に関する親のかかわりをみてきた。小学生のうち親に厳しく使用をコントロールされていた子どもたちも、中学生、高校生となるにつれて、だんだんと自由に使える範囲を増やしていく。しかし親の放任は、長時間使用や、それが引き起こすネガティブな影響が生じる可能性も増大させることになる。携帯電話の使用に限ったことではないかもしれないが、大人たちは、子どもの発達段階に合ったルールを提示し、見守り続けることが大切であるように思う。

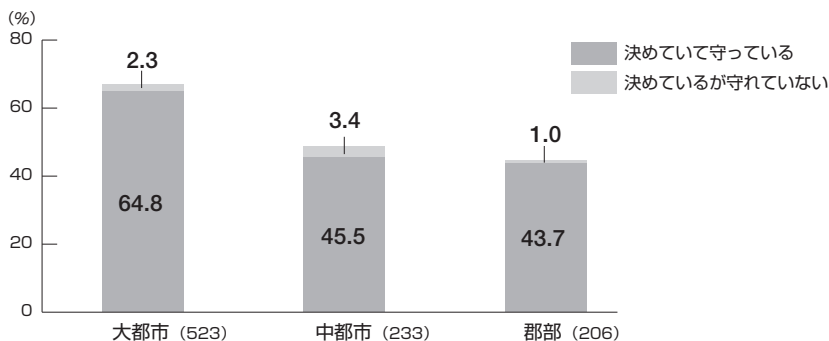
図1-3-4 携帯電話の使い方についてのルールの有無（小・中学生／成績別）



注1) 「あなたは携帯電話を持っていますか」の設問に「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。

注2) ( ) 内はサンプル数。

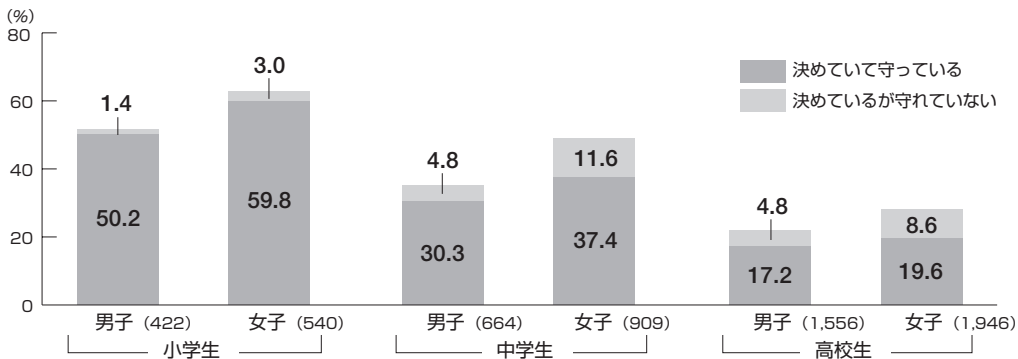
図1-3-5 携帯電話の使い方についてのルールの有無（小学生／地域別）



注1) 「あなたは携帯電話を持っていますか」の設問に「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。

注2) ( ) 内はサンプル数。

図1-3-6 携帯電話の使い方についてのルールの有無（学校段階別／性別）



注1) 「あなたは携帯電話を持っていますか」の設問に「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人のみ対象。

注2) ( ) 内はサンプル数。

## 携帯電話の非所有者の意識

「携帯電話は持っていない」と回答した層に、「あなたは、携帯電話がほしいと思いますか」と質問した結果、「ほしい（「とてもそう思う」＋「まあそう思う」の%）」と回答したのは、小学生64.4%、中学生68.7%、高校生47.3%であった。

### ◆ 高校生の非所有者層で携帯電話がほしいのは47.3%

「携帯電話は持っていない」と回答した層（表1-4-1）に対し、「あなたは、携帯電話がほしいと思いますか」と質問した。図1-4-1によれば、「ほしい」（「とてもそう思う」＋「まあそう思う」の%、以下同）との回答は、学校段階別で小学生が64.4%、中学生が68.7%、高校生が47.3%となっている。

携帯電話を持たない小・中学生のおよそ6～7割が「ほしい」と回答しているのに対し、高校生の「ほしい」という回答は少ない。高校生は携帯電話を所有している層の割合が9割以上と高く、所有していない層は少数派である。小・中学生と高校生では非所有者の絶対数が大きく異なり、単純な比較はできないが、高1生の女子の「ほしい」は62.5%で高い。しかしそれ以外は4割台であり、携帯電話を

持っていない生活でも特段不便も必要もない、よって「ほしいとは思わない」と考える層が存在するのかもしれない。

学年別では、多少の上下があるが、男女とも中3生がもっとも「ほしい」割合が高い。既出の所有率の伸び（第1章第1節 図1-1-1参照）からも、中3生から高1生になるタイミングが「ケータイデビュー（＝はじめて携帯電話を所有する）」の時期にあたるといえるだろう。

性別にみると、いずれの学年においても女子のほうが男子よりも「ほしい」と回答した割合が高い。女子のほうが、所有率が高まる時期も早く（第1章第1節 図1-1-1参照）、持っていない層には携帯電話を持つことへの「あこがれ」のような気持ちを持つ子どもが多いことも推察される。

表1-4-1 携帯電話の非所有率（学年別、学年別／性別）

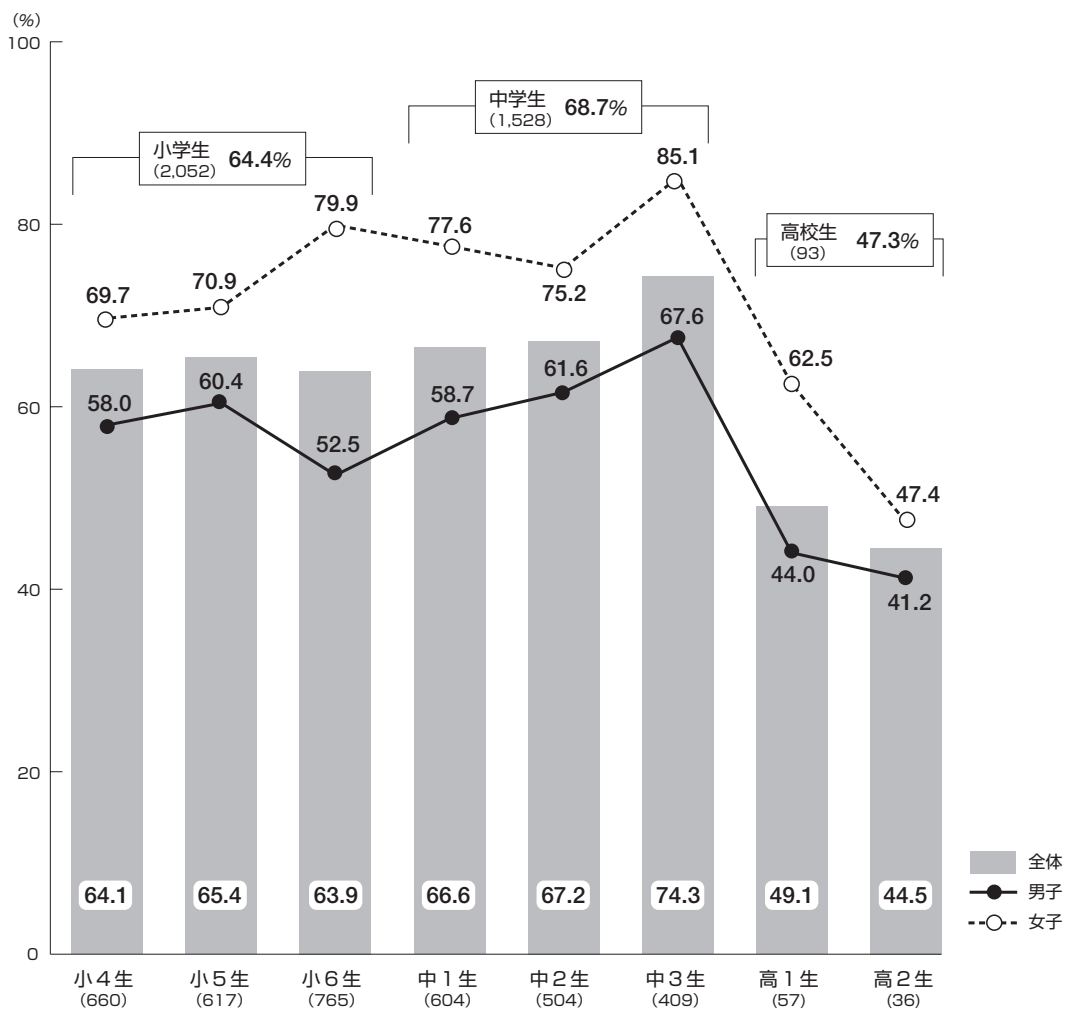
	(%)							
	小4生	小5生	小6生	中1生	中2生	中3生	高1生	高2生
全体	66.2	65.6	64.1	53.8	45.4	39.0	2.7	2.1
男子	65.6	67.7	71.4	62.0	50.9	47.5	4.3	2.2
女子	66.7	63.3	56.2	45.5	39.5	30.1	1.4	2.0

注1) 「携帯電話は持っていない」の%。

注2) サンプル数は、以下のとおり。小4生997人、小5生941人、小6生1,193人、中1生1,123人、中2生1,110人、中3生1,049人、高1生2,097人、高2生1,698人。男子（小4生486人、小5生474人、小6生616人、中1生571人、中2生574人、中3生533人、高1生957人、高2生761人）、女子（小4生510人、小5生466人、小6生575人、中1生550人、中2生532人、中3生515人、高1生1,137人、高2生933人）。



図1-4-1 携帯電話の所有願望（学校段階別、学年別、学年別／性別）



注1) 「あなたは携帯電話を持っていますか」の設問に「携帯電話は持っていない」と回答した人のみ対象。

注2) 「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

注3) ( )内はサンプル数。なお、学年別の性別でのサンプル数については、以下のとおり。男子(小4生319人、小5生321人、小6生440人、中1生354人、中2生292人、中3生253人、高1生41人、高2生17人)、女子(小4生340人、小5生295人、小6生323人、中1生250人、中2生210人、中3生155人、高1生16人、高2生19人)。